



## No. 13 (2007年2月発行) 発行：北海道海洋生物科学研究会

- |                    |                     |
|--------------------|---------------------|
| 1. 代表幹事に就任して       | 佐々木 達 さん(株式会社エコニクス) |
| 2. 私が会員です(第17回)    | 堀田 清 さん(北海道医療大学)    |
| 3. 北海道の海に関するHP等(1) | 栗原 秀幸 (編集担当)        |
| 4. 事務局だより          |                     |

### 1. 代表幹事に就任して

#### 代表幹事 佐々木 達 さん(株式会社エコニクス)

鈴木 稔前代表の後をうけ「北海道海洋生物科学研究会」の代表幹事を引き継いだ佐々木 達です。北海道は太平洋、日本海、オホーツク海という異なった特性をもつ3つの海域に囲まれ、海岸線の延長は全国の9%、水産物の漁獲量は1/4を占めており、また、年間の海水温度差が日本一大きく、生物の多様性に富んだ海域です。

このような海域の生物を対象に研究、利用、産業化などを行っている研究者等により、2003年10月に本研究会は発足しました。本研究会は「海洋生物」という唯一のしほりがあるだけなので、海洋植物、動物、微生物などの化学、生理化学、生態、遺伝子資源など多岐にわたる研究分野の人々の参加が、他の学会や研究会にない大きな特徴です。今後もこの特徴を大いに生かし、会員の数誇るのではなく、質で地域社会に貢献できる研究会にしたいと考えています。

私達を取り巻く、内外の社会環境は大きく変化していますが、今後も研究会の設立趣旨である会員間の情報交換および交流、研鑽の場として、自由闊達なサロンのなかに発展させて行きたいと思えます。また、私達の研究フィールドである北海道の海洋環境は水温一つを取っても、早いスピードで変化しているのは私だけではないと思えます。これら海洋環境の諸問題を取り扱うのも、この研究会の方向の一つと考えています。

研究会は今年で4年目を迎えますが、年1回の会員交歓会(シンポジウム、発表会) ニュースレター等の充実を通じ、会員の研究の一助となるよう努めていきたいと思えます。会員皆様の、より一層のご支援とご協力よろしくお願いいたします。



## 2. 私が会員です (第17回)

### 堀田 清 さん (北海道医療大学)

〇〇〇 堀田 清の生い立ち 〇〇〇

- 1958年2月27日 北海道日高地方の襟裳岬、アポイ岳のほど近い浦河町で生まれる。
- 1958年3月～ 以後高校卒業まで18年間、海、山を友達にして野生児のように育つ。  
子供の頃の夢は砂漠の緑化、海産物の養殖、大好きなリンゴの品種改良など、自然のそばで何か仕事をしたいと思っていた。
- 1976年4月 志望大学の受験に失敗。薬科大学（北海道医療大学）に進学。入学当時は生薬、漢方を志す。が4年後には何故か全くの対極にある西洋医学の医薬品合成のための基礎学問（有機化学）を極めようとしていた。
- 1980年4月 薬剤師の資格を取得。北海道大学大学院薬学研究科へ進学。
- 1985年4月～ 5年間の有機化学の修行を終え、薬学博士。この時点では、子供のころの夢から益々離れていっていることに気がついてはいなかった。さらに10年半、助手として研究室に残り、有機化学を極めようとした。
- 1986年8月～12月 アメリカのハーバード大学化学科に留学。
- 1995年9月～ コロラド州立大学化学科留学。
- 1996年10月 2度のアメリカへの留学で西洋の文化にどっぷり浸る。益々西洋の考え方、文化に傾倒していく。気がつくとも36歳・・・。  
毎日朝7時半出かけ、夜は12時過ぎの帰宅。家庭を全く顧みない日本人にはよくあるタイプのお父さんだった。自分では「私は科学の進歩＝人類の進歩に大きく貢献している素晴らしい人生を過ごしている」と思っていた。が、毎日歯茎から血を流し（歯周病）、お尻から血を流し（痔）、年に2度は高熱を発し、最先端の西洋薬で体をごまかし、心をごまかしながら日々をととても充実していると錯覚しながら過ごしていた。さすがに自分の体の異常に気がつき「このままでは死ぬ」と自覚した。心も体にも赤信号が灯っていた。
- 1995年10月～ 多くのヒトのおかげで北海道医療大学薬学部・生薬学吸教室の助教授へ転職。この間1999年から4年間北海道医療大学薬学部附属薬用植物園園長として今は年間4,000人以上のリピーターが来園する北方系生体観察園設立に奔走。また全くの専門外だった薬用植物学と漢方を勉強するために、この12年間は春、夏、秋、冬、全ての季節で野山に出かけ、色々な植物たちを見てきた。ここ4年間は憲仁会牧田病院の今井純生医師に師事し漢方について詳しく学ぶ。原点に戻り、傷寒論を勉強中。  
漢方の修行も同時に行ってきたが、今は、漢方で最も大切な「気」をいかにしてたくさん自分の体に取り入れるかを考え、実践しながら毎日を生きている。  
はたと考えると、子供のころの夢だったこととかなり近いことをやっていることに気づく。野山を駆けめぐり、四季おりおりの植物たちの元気を撮っている自分が・・・、遠回りしたけれどもここにいる。

専門研究分野：薬用植物学、生薬学、漢方薬物学、廃棄野菜を使ったセッケンの開発

趣味：山野草観賞 & 写真撮影（色々な植物から元気の出る写真を撮りたいと思っています。2006年2月17日-3月1日まで札幌の富士フィルムフォトサロンで個展「植物エネルギー はる・なつ・あき・ふゆ」開催。  
将棋（自称約2段）、麻雀（自称プロ級）、山菜取り、自分の証を理解して自分の状態に合った色々な漢方薬を飲んでみることに、北海道の旬の美味しいモノを食べること、北海道の温泉巡り & Beer、野球、サッカー、テニス、音楽鑑賞（特にクラシック、月並みですがベートーベンの交響曲5番、第3楽章の入りの部分は最高だと思います。）、カラオケ（歌い始めは必ず里見浩太郎「ああ人生に涙あり」で、その後は色々）

日本人にとって今最も必要な「心のくすり」とは何かを研究していくつもりです。



### 3. 北海道の海に関するHP等（1）～国関連編～

#### 栗原 秀幸（編集担当）

北海道の海に関する情報は、様々なHPから閲覧できます。編集担当の独断と偏見でいくつかピックアップしてみます。

1) 海上保安庁第1管区海上保安本部 (<http://www.kaiho.mlit.go.jp/01kanku/>) 関連

1. 北海道の海

◎北海道周辺の海に関する様々な情報（海流・流氷・潮汐など）を掲載しています。

<http://www1.kaiho.mlit.go.jp/KAN1/>

2. 流氷情報センター

◎冬季限定ですが、流氷の分布情報が掲載されています。

<http://www1.kaiho.mlit.go.jp/KAN1/1center.html>

3. 知床沿岸環境対策室

◎世界遺産知床の沿岸の情報がマップで提供されています。

<http://www.kaiho.mlit.go.jp/01kanku/shiretoko/shiretoko.html>

2) 独立行政法人水産総合研究センター関連

1. 北海道区水産研究所

◎水産に関わる情報が提供されています。

<http://www.hnf.affrc.go.jp>

2. さけますセンター

◎さけます関連の情報が提供されています。

<http://www.salmon.affrc.go.jp/>

### 3) 北海道開発局

◎河川，港湾，水産など海にかかることも結構あります。

<http://www.hkd.mlit.go.jp/>

今後も、「こんな情報が得られるHPがあり，皆にも知ってもらいたい」というのがあれば，アドレスを載せていきます。編集幹事の栗原までご連絡をください。



## 4. 事務局だより

### 1) 次回シンポジウムの予定

平成19年度の活動として、11月9日（金）に北海道大学学術交流会館でシンポジウムを開催予定です。詳細は次号でお知らせしますが、会員各位のご参加をお待ちしています。

### 2) 会員募集

個人の会員はもとより、団体としての入会も歓迎します。ぜひ、賛助会員第1号になっていただける方にお声をかけてください。（賛助会員年会費 10,000円）なお、入会希望の方には払い込み票をお送りしますので、ご連絡下さい。

### 3) 会員の動向

下記の方が異動されました。

津田正史氏 高知大学海洋コア総合研究センター

・本会に関する問い合わせ・入会希望は、事務局（沖野 龍文）TEL011-706-4519、電子メール [okino@ees.hokudai.ac.jp](mailto:okino@ees.hokudai.ac.jp)

・ニュースレターへの情報提供・投稿などに関するお問い合わせは、ニュースレター編集担当（栗原 秀幸）TEL0138-40-5561、電子メール [kuri@fish.hokudai.ac.jp](mailto:kuri@fish.hokudai.ac.jp) までお願いします。

### 編集後記

今年は記録的な暖冬の様です。函館は雪がなくなってから久しく、冬を越えた感じがしません。海水温も高めのようで、道南部でも例年に比べて2℃以上高いところがあるようです。毎年、海洋生物を定点で採集している方は心配かもしれません。今年も皆様にとって良い年であるようお祈り申し上げます。（栗）